



大学生の語彙力を測定する ためのテスト開発について

○浅野 茂* 藤原 宏司* 白石 哲也*

2018年11月02日(金) 13:00~16:30
平成30年度IR実務担当者連絡会@三重大学

*山形大学 学術研究院

本日の報告内容

1. 語彙力テストとは？
2. 開発の背景
3. 開発の状況
4. まとめと今後の展望

語彙力テストとは？

語彙 ≡ Vocabulary

→ある言語、ある地域・分野、ある人、ある作品など、それぞれで使われる単語の総体。

広さ:どのぐらいの語彙を知っているか

深さ:特定の語彙をどのぐらい知っているか

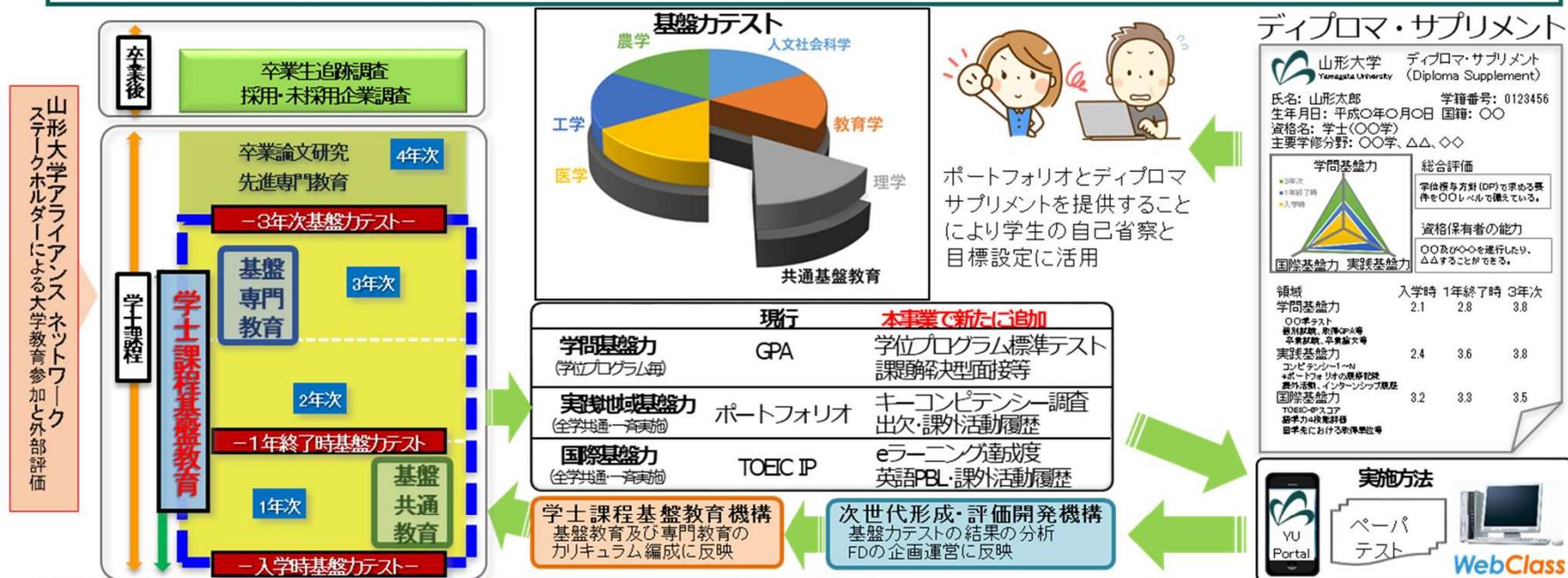
本報告の語彙力テストは、「深さ」の測定に主眼を置いたもの。

開発の背景：AP事業の構想概要

大学等名：山形大学
 テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）



全学横断の基盤力テスト及び山形大学アライアンスネットワークによるステークホルダー外部評価を通じた卒業時の質保証
 学修達成度を3年3回3種の基盤力テストで定量化、客観的な指標による教育の質保証とPDCAサイクルの実質化
 地域企業・自治体・教育委員会・保護者からなる山形大学アライアンスネットワークを母体に教育改善アドバイザリーボードを形成



開発の背景：基盤力テストの目的と実施時期

- 学生の学習達成度を**直接評価**し、基盤教育の効果を検証すること

山形大の学士課程教育

4年次

基盤力テスト（3年次）

2～3年次
基盤専門教育

基盤力テスト（2年始業時）

1年次
基盤共通教育

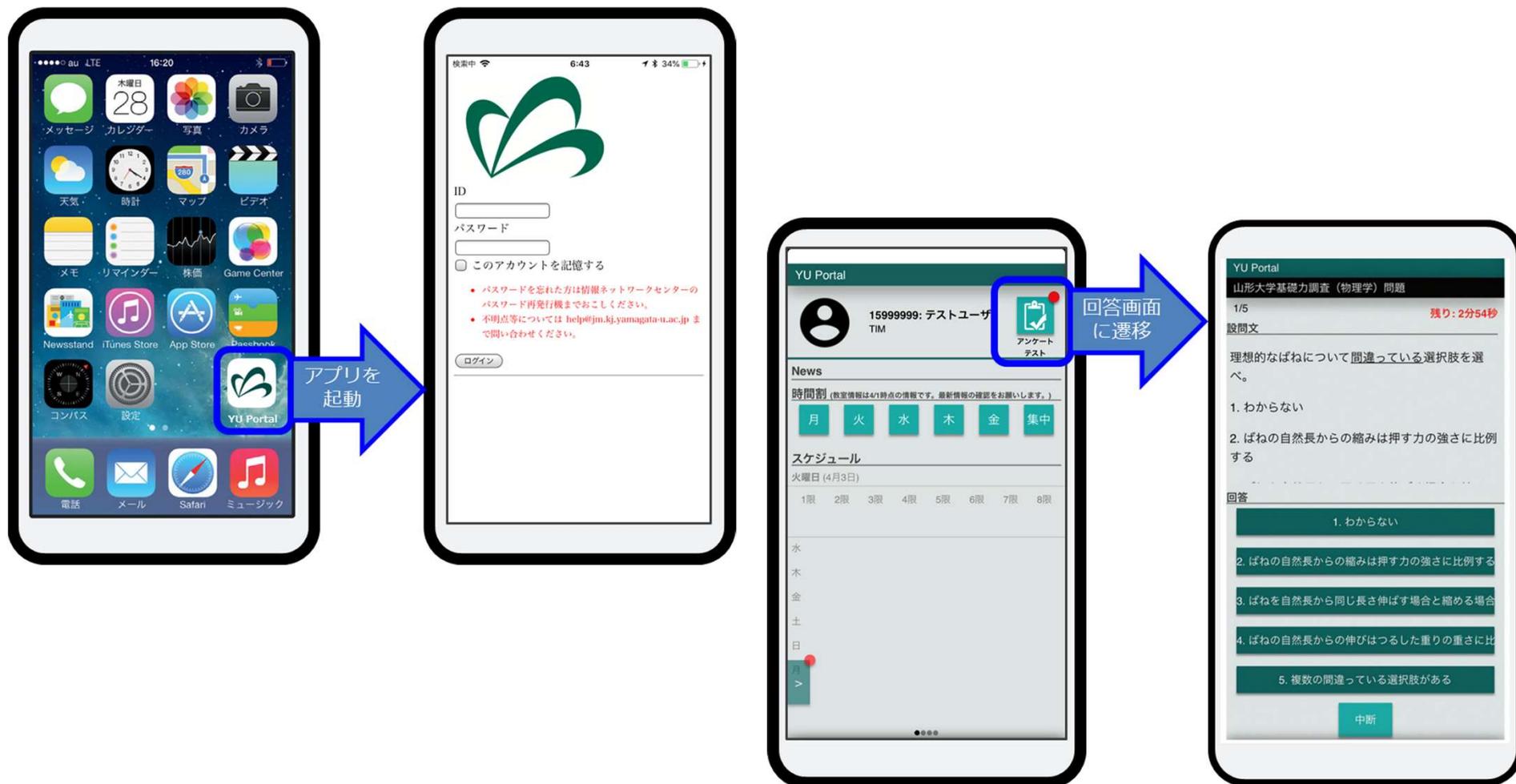
基盤力テスト（入学時）

開発の背景：基盤力テストの概要

- **学問基盤力テスト**—自律的に課題に取り組む専門力
 - 数的文章理解・数学・物理学・化学・生物学
- **実践地域基盤力テスト**—社会でリーダーシップを発揮する人間力
 - 5因子性格調査
 - 出欠状況・ポートフォリオ（現存）
 - フィールドワーク・インターンシップ・課外活動実績
- **国際基盤力テスト**—実践的な英語で多様性に挑戦する国際力
 - TOEIC（現在2回実施）
 - eラーニング、留学等国際関係活動実績

開発の背景：基盤カテストの実施基盤

- 独自にスマートフォンアプリ(YU Portal)を開発



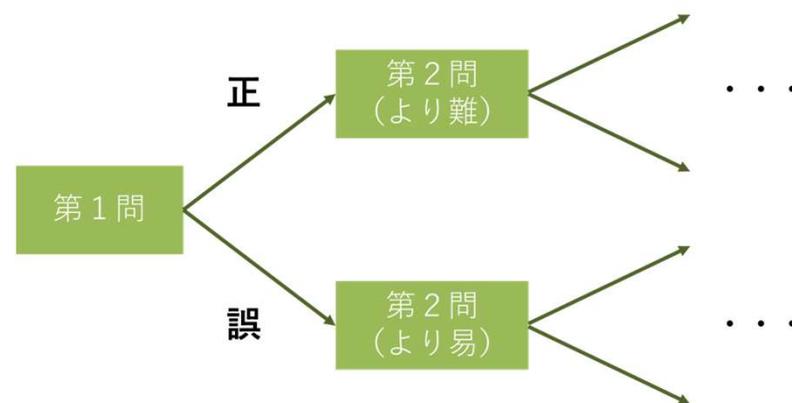
開発の背景：学問基盤力テストの実施形式

試験形式

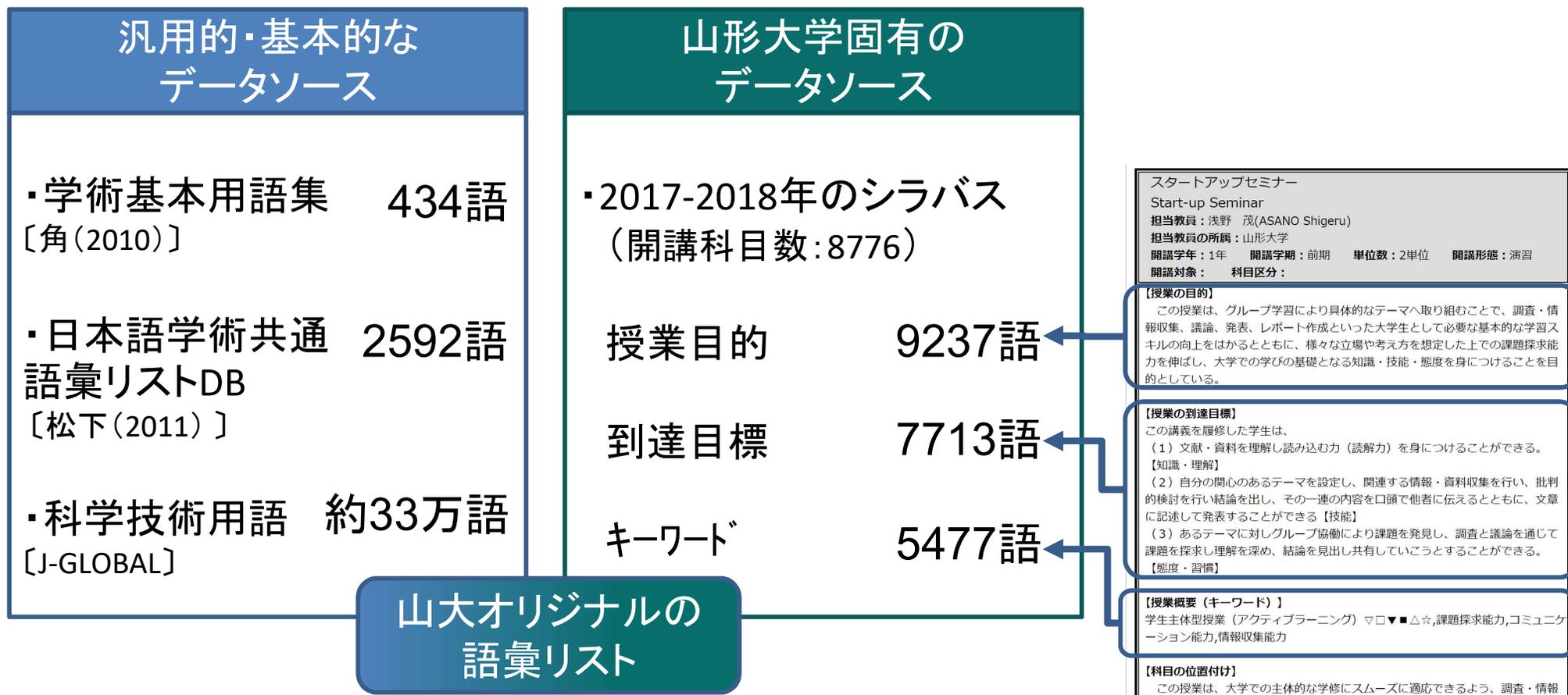
- 試験時間は**5科目で30分程度**を想定
 - 出題数は各分野、**5問ずつ**
 - 設問毎の制限時間：**3分**

出題形式

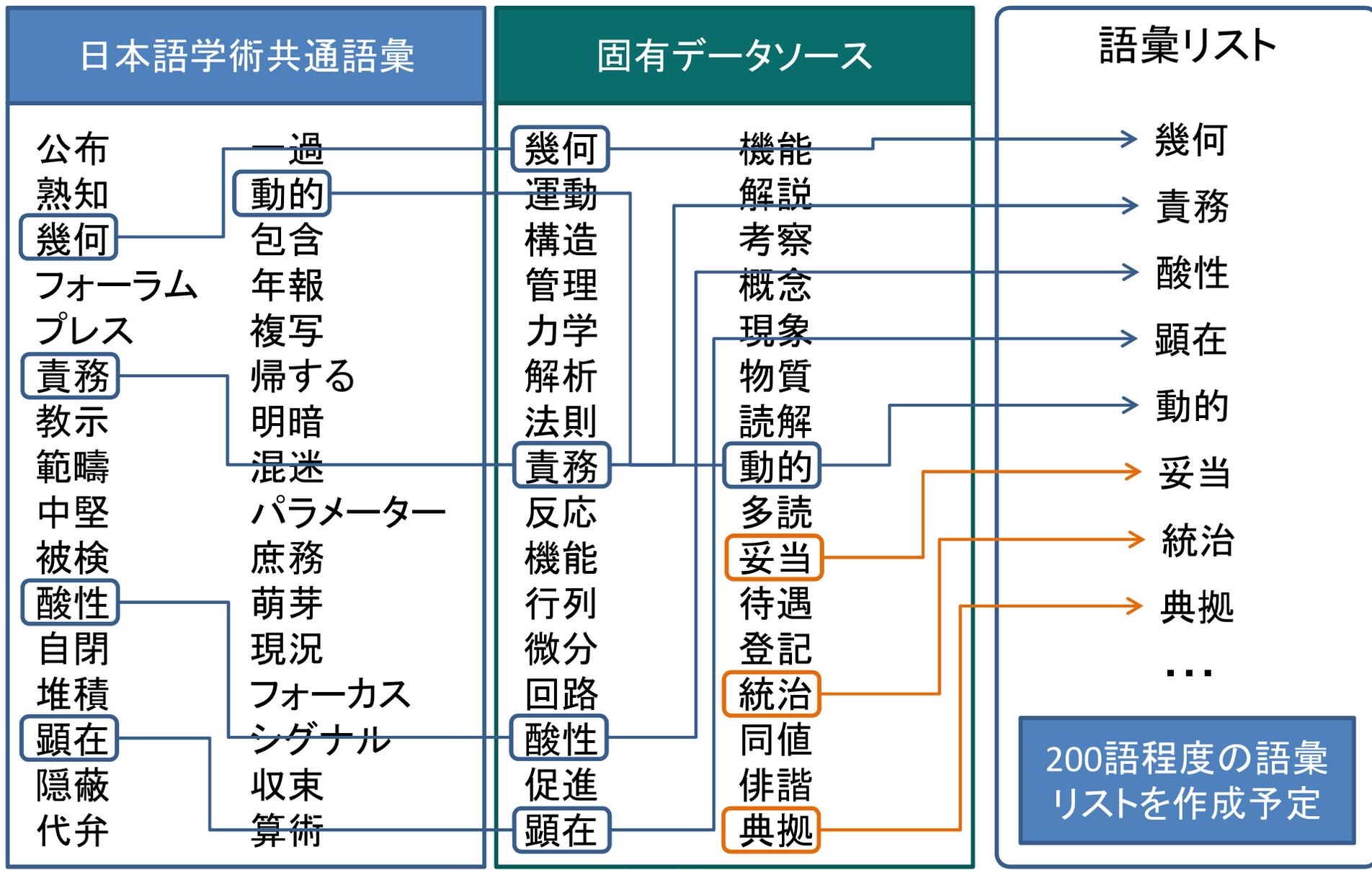
- 項目反応理論 (Item Response Theory, IRT) による、受験者の回答に応じた難易度調整



開発の状況：基本的な方向性



開発の状況：語彙リストの作成

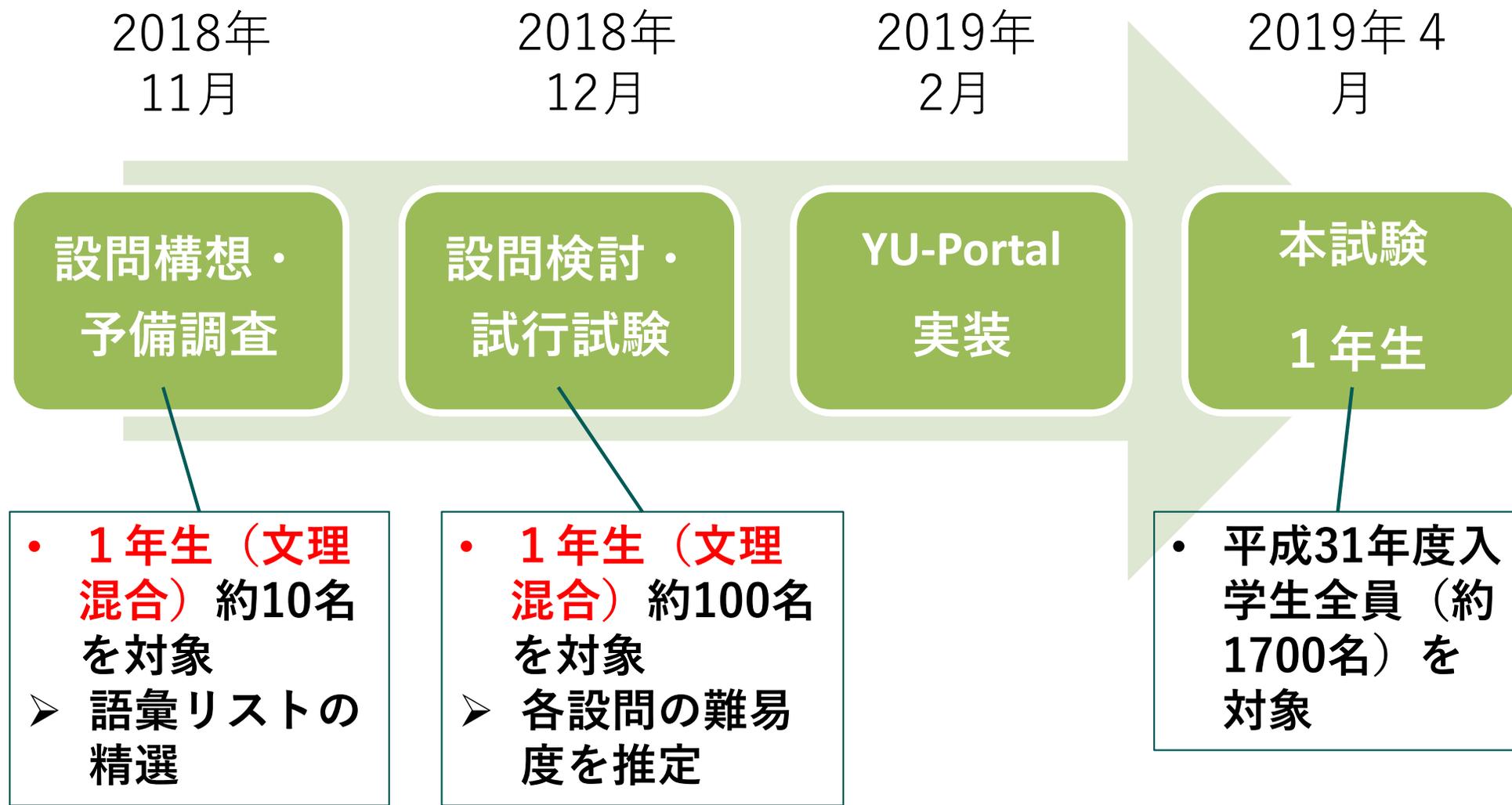


開発の状況：設問例

問. 「典拠」について、最も適当なものを以下の選択肢から一つ選べ。

1. 文献などにみられるしっかりした拠り所
2. 書物の記述をよくよく理解せずに信じてしまうこと
3. 研究や著作のために文献資料を収集すること

開発の状況：スケジュール



まとめ

- 大学での学びや社会で強く求められている思考力の基盤をなす日本語の語彙力を測定できるテスト開発を進め、山形大学における学修成果の把握、教育の質保証の強化につなげていく。
- 実施に当たっては、基盤力テストの実施基盤である独自開発の「YU Portal」を活用することで、効率的に実施できる。
- 基盤力テストの一環として実施することで、毎年、約1800人のデータを収集することが可能。

今後の展望

- 語彙力テストを通じて、大学生の学びの基盤をなす日本語の語彙力を測定し、ベースラインの確立につなげる。
- 日本語のコミュニケーション能力が低い、語彙力が低いという社会からの指摘に対して、客観的な数値で答えていく。
- 英語版を作成し、国際基盤力テストの一環として実施予定。

参考文献

- 佐藤尚子(2011)「大学での学びに必要な語彙力の養成」リメディア
ル教育研究第6巻第1号, 6-15頁.
- 角知行(2010)「学術基本用語集作成の試み」アカデミック・ジャパ
ニーズ・ジャーナル2, 11-21頁.
- 田嶋ますみ; 佐藤尚子; 橋本美香; 松下達彦; 笹尾洋介(2016)「日本
人大学生の日本語語彙量測定の試み」中央学院大学人間・自
然論叢第41巻, 3-20頁.
- 松下達彦(2011)「日本語の学術共通語彙」2011年度日本語教育学
会春季大会研究発表予稿集.

■

ご清聴ありがとうございました。

本報告に対するご意見、ご質問等は以下までお願い致します。

asano@cc.yamagata-u.ac.jp

語彙力テスト開発は、一般財団法人大学IR総研「大学IRの充実に資する研究または実践活動への助成」(研究代表者:浅野茂)を受けて実施しております。

